事務局から

令和5年度役員総会を開催しました

２０２３年７月２７日、北の縄文道民会議の令和５年度役員総会を、「北海道開拓の村」にある旧開拓使札幌本庁舎会議室で開催しました。

７月２７日は、２年前に「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録が決定した記念すべき日です。その興奮を思い出しながら、令和４年度の事業報告・決算報告、令和５年度の事業計画・予算の審議を行いました。

当日は、名誉代表である鈴木直道北海道知事からご挨拶をいただき、登録決定時はコロナによる様々な制限がたくさんありましたが、それを乗り越えて、今こそ、縄文の魅力を一層国内外に伝えていくべく我々の決意を共有しました。

令和４年度は、世界遺産登録後の本会の役割を整理するとともに役員改選を行ったほか、登録１周年の講演会などを北海道と開催したこと、各種機関や団体との連携や、会報、JOBON、SNSなどを通じて、縄文の魅力を発信したことなどを報告しました。

令和５年度は、引き続き、情報発信等に努めるとともに、登録２周年を記念した動画の制作・配信、道内で活動する団体やグループとのイベントなどを実施して参ります。

審議の後は、北海道博物館で７月２２日に開幕したばかりの「北の縄文世界と国宝」展（道民会議は後援）を視察しました。

◆会報や小冊子「JOBON」のバックナンバーは、道民会議のホームページでご覧いただけます。
◆ホームページのほか SNS（Facebook ページ、インスタグラム）、YouTube チャンネルで、縄文の魅力や活動状況を日々発信しています。

北の縄文道民会議
Hokkaido Jomon Culture Promotion Council

編集後記

会員の皆さま、いかがお過ごしでしょうか。

今夏の北海道は〝熱中症警戒アラート〟が相次ぎ発表され、痛い日差しに耐えながら酷暑との闘いの日々が続きました。今は、一気に秋模様に変わり、〝アレ〟は何だったのでしょう。

今年は世界遺産登録２周年。道内外にある縄文時代の国宝などが北海道博物館に結集して特別展「北の縄文世界と国宝」が開催されました。道内初展示の〝火焔型土器〟や土偶の〝縄文の女神〟〝仮面の女神〟に潜む「縄文人の高い技術力と美意識」は、多くの縄文フアンを魅了したことでしょう。

いよいよ秋の行楽シーズン到来。各地で〝縄文まつり〟などのイベントが目白押しです。是非、カメラ片手に縄文遺跡巡りを！

編集・発行：世界文化遺産登録の縄文遺跡群と全北海道の縄文遺跡群の活用を推進する道民会議
編集長　谷　紘道　　編集委員　依田　妙恵
TEL：011-221-1122　FAX：011-221-0117　http://www.jomon-do.org/　E-mail ebisutani@chuo-bus.co.jp

お詫び：前号の「巻頭あいさつ（副代表　安田光春）」において、肩書の一部が誤っていました。
正しくは「北海道経済同友会代表幹事、株式会社北洋銀行取締役頭取」です。

2023 Autumn Vol.29

北の縄文

HOKKAIDO　JOMONCLUB　NEWSLETTER

CONTENTS

■P1　巻頭あいさつ
■P2-3　北の縄文文化回廊を巡って（第４回）
■P4-5　世界遺産２周年の夏は熱かった！
■P6　道民会議からのお知らせ
■P7　縄文世界遺産推進室からのお知らせ
■P8　役員総会、編集後記

巻頭あいさつ

北の縄文道民会議
副代表　堀井　敬太

北海道縄文のまち連絡会　会長

伊達市長

「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録を記念して北海道博物館で開催されていた特別展「北の縄文世界と国宝」が盛会の内に幕を閉じました。北海道内外から多くの方が来館され、国宝土偶や火焔型土器などの縄文文化を代表する逸品や世界遺産の構成資産から出土した優品をご覧になられて、改めて「縄文の美」や「縄文の精神文化」の魅力と奥深さを感じていただくことができたのではないかと思います。特別展の開催にご尽力くださいました関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

また、本展では、私たち北海道縄文のまち連絡会の加入自治体からも多くの出土品が出展されましたが、中でも、函館市の国宝「中空土偶（カックウ）」と共に遠軽町の白滝遺跡群から出土した黒曜石製石器が「国宝」（2023 年６月指定）として展示されたことを大変喜ばしく思います。

「北海道白滝遺跡群出土品」が旧石器時代の資料として初めて国宝に指定されたことが示すとおり、北海道には、旧石器時代から近現代に至るまでの特徴的で地域的な多様性に富んだ豊かな歴史文化を伝える遺産が数多く残されています。

縄文のまち連絡会では、正式名称が「世界文化遺産登録の縄文遺跡群と全北海道の縄文遺跡群の活用を推進する道民会議」に改められた北の縄文道民会議の皆様と共に、「縄文」をアイコンとして、北海道全体の豊かな歴史文化遺産のさらなる活用や発信に努めてまいります。

北黄金貝塚公園（伊達市）

北の縄文道民会議　荒川代表が行く！北の縄文文化回廊を巡って【第４回】

世界遺産の旅を綴ってきたこの縄文文化回廊巡りも、残すところ北海道の資産だけとなりました。当初、この回での終了を予定していましたが、今回は６つの構成資産までとし、追加で次回、関連資産の鷲ノ木遺跡、及び新たに国宝となった白滝遺跡群出土品と北海道博物館特別展「北の縄文世界と国宝」にも触れて連載を閉じたいと思います。

Ⅳ　北海道

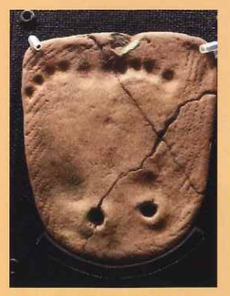
１　垣ノ島遺跡（函館市）

垣ノ島遺跡は、ステージⅠの後半、「集落の成立」を示す 7000 年前の資産と位置づけられており、最終氷期が終わって土器が使われ始める大平山元遺跡に続く、定住が本格化した時代の遺跡です。史跡は中断はありつつも６千年間続いたとされており、この地が恵み豊かであり続けたことの証です。

縄文交流センターから見た盛土遺構

遺跡の大きな部分を占める盛土遺構は、190ｍ×120ｍの大きさで、大量の遺物が出土し、中央はマウンド状に盛り上がっていて、南北に貫く「道」、さらには南端に列柱の跡が確認されており、重要な祭祀場だったことが分かります。

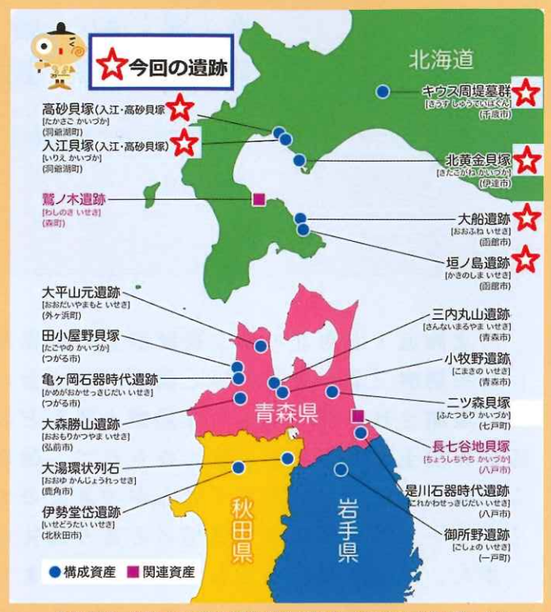
縄文文化交流センターには、多くの人の心を揺さぶる足形付土版があります。竪穴式住居で定住することによって強まった家族の愛情がそこにあった、ということが直に伝わってきます。また、静謐な空間に立つ国宝・中空土偶は、時を越えて私たちに何を語りかけているのか。縄文の「心」を感じる上で、ぜひ一度は訪れたい場所です。



そこに確かに存在した
乳児の足形と親の愛

２　大船遺跡（函館市）

垣ノ島遺跡に近い大船遺跡は、三内丸山遺跡と同じ「拠点集落の出現」を示す 4500 年から 4000 年前の資産です。深さ 2m以上掘り下げられた大型の建物跡は、２階建てだったという説もあるようですが、いずれにしても大掛かりな工事が必要であり、集落の人々が力を合わせて造ったものなのでしょう。



「北海道・北東北の縄文遺跡群キッズサイト JOMON ぐるぐる」より

現在、遺跡公園が整備中で、海を越えて持ち込まれたであろうクリの木をはじめ植生の復元もなされ、この丘全体の充実が楽しみです。

復元されたクリの木がある集落の景観

遺跡の傍らを流れる大舟川の上流には、白い硫黄泉の「ひろめ荘」があります。縄文の人々も疲れや病を癒やしていたのでしょうか。

３　入江貝塚／高砂貝塚（洞爺湖町）

洞爺湖町の住宅地にある２つの構成資産のうち、入江貝塚はステージⅢの前半「共同の祭祀場と墓地の進出」を示す 3800 年前、高砂貝塚は最終段階「祭祀場と墓地の分離」を示す 2000 年前の資産です。入江貝塚では、トンネル状の通路を行くと貝塚の断面と足下の状況が見られるようになっており、イルカなどの海獣を主な食糧としていた様子がうかがえます。

入江高砂貝塚館では、縄文の上に渦巻などを大胆に描いた現代アートのようなデザインの土器、北海道には生息しないイノシシとみられる土製品など当時の精神文化が垣間見られる特色ある展示があります。

また、寒冷化が進む中、障がいのある人が成人になるまで支え合ったり、妊娠した女性の死を悼んで手厚く埋葬したムラの人々の生き方や思いを知ることができます。

左：この地独特の文様が刻まれた入江式土器
右：イノシシと思われる謎の土製品

４　北黄金貝塚（伊達市）

夕暮れ迫る丘の上の貝塚

伊達市の北黄金貝塚は、「集落施設の多様化」を示す 7000 年前から 5500 年前の資産ですが、史跡は 4000 年前まで約 3 千年間続きました。この間、海進も海退もあり、それに対応して集落や貝塚が移動したということが分かっています。

噴火湾を望む丘の上にある貝塚から見た素晴らしい夕暮れの景色を、縄文の人たちも眺めたと思うと感慨深いものがありました。

摺り石と石皿～道具もあの世に送られた

湧き水の側の「水場遺構」からは大量の石皿が伏せられ壊された状態で発見されており、使い終えた道具も「送り」の対象だったことが分かります。

伊達市の道の駅にある「だて歴史文化ミュージアム」も必見で、続縄文時代のクマの彫刻がついた匙状の遺物はアイヌ民族のイクパスイの原型という説もあります。

５　キウス周堤墓群（千歳市）

道東道の千歳東インターの近く、馬追丘陵の裾に位置し、札幌から最も近い世界遺産であるキウス周堤墓群は、高砂貝塚と同じ最終段階の 3200 年前を示す資産です。

2号周堤墓の土手の上と地面の高低差は5m

周堤墓の大きなものでは、地面から２ｍ掘り下げ、掘った土を周りに積み上げて高さ３ｍの土手を造りました。墓参りや祭祀のための参道とみられる箇所もあります。

これだけの大工事には、近隣集落の人たちが総出で汗を流したことでしょう。寒冷化が進む中、その力の源泉は、先祖や霊力を持つ聖なるものへの切なる祈りだったのでしょうか。

ここからは、石柱や石棒などお墓や祭祀に関する遺物が出土しており、それらは少し離れた千歳市の埋蔵文化財センターに展示されています。

遺跡より低い土地は現在は農地などになっていますが、百年くらい前までは広大な湿地や沼が広がっていました。水辺には食料となるたくさんの魚や鳥が生息し、舟での移動もしやすい地の利に恵まれていたと考えられています。

左：お墓に立てられたとみられる石柱（172cm）
右：副葬された石棒に刻まれた文様と彩色